

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第8回 有効高さ評価モデル分科会 (A1SC8) 議事録

1.日時 2010年3月30日(火) 14:00～17:00

2.場所 (財)電力中央研究所 大手町ビル7階 第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 市川(副主査), 込山(幹事), 安達, 近藤, 山澤, 永井, 舘野,
大場, 河合, 福田, 筑紫, 佐田, 沼田, 安田 (15名)

(欠席委員) 本間, 鈴木

(常時参加者) なし

(傍聴者) 樋口, 上杉 (2名)

(事務局) 岡村

4.配布資料

A1SC8-1 前回議事録 (案)

A1SC8-2 有効高さ評価モデル実施基準 コメント集約表

A1SC8-3 数値モデル計算実施基準 (案)

5.議事録

(1)出席委員の確認

込山幹事により 17 名の委員中、15 名の委員の出席があり、定足数(12 名以上)を満足していることが確認された。

(2)人事案件

日本原子力研究開発機構の日高委員の異動に伴い、後任として日本原子力研究開発機構の本間氏の委員就任が満場一致で承認された。

(3)前回議事録の確認

込山幹事より A1SC8-1 に基づき第 7 回有効高さ評価モデル分科会議事録(案)が説明され、内容が了承された。

(4)実施基準原案(附属書)の検討

込山幹事、大場委員、佐田委員、沼田委員より A1SC8-1 及び A1SC8-2 に基づき、実施基準原案(附属書)に対する各委員から寄せられたコメントについて説明があり、コメントの内容について検討を行った。主な議論は以下のとおり。(No.は A1SC8-2 の No.と一致、新規は新たなコメント)

- ・ No.40：参考文献 A-2)の文献名は「・・・(案)」でありかつ同じ文献を参考文献としている「(社)日本原子力学会標準 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準」においても同一の表記としていることから現状のままとする。ただし、「・・・(案)」という表記はあまり好ましくないため、基準制定後の改定時に修正を行うこととする。
- ・ No.45：“EU 標準” → “EU の手引き” に変更する。
- ・ No.59：図 C.6 はわかりにくいので、P.25 の説明文を充実させ略図等を追加しわかり易くする。
- ・ 新規(附属書全体)：参考文献の番号と引用箇所の番号を一致させること。
- ・ 新規(附属書全体)：参考文献の番号の順番を引用順に変更すること。
- ・ 新規(P.18 上 13)：“・・・，数値モデルの気流計算と拡散計算の基本的な性能を確認するものとし、・・・” → “数値モデルの基本的な性能を確認するものとし、・・・” に変更する。
- ・ 新規(P.19 上 8)：“窒素酸化物総量規制マニュアル” を参考文献に追加すること。
- ・ 新規(P.23)：図 B.4 の図がずれているので修正すること。
- ・ 新規(P.34 上 9 他)：“A 地点” という表記はある 1 ポイントを指しているように誤解される恐れがあるので、“A サイト” に変更する。
- ・ 新規(P.34 上 11)：“(解説参照)” を削除し、適切な参考文献を引用する。

- ・ 新規(P.35)：“図 E.1 建屋地形計算における建屋及び周辺地形 (A 地点の例)” → “図 E.1 建屋・地形計算における建屋及び周辺地形例” に変更する。
- ・ 新規(P.36)：図 E.2(2)を削除し，“図 E.2(1) 建屋周辺の気流計算結果 (A 地点の気流ベクトル例，→は排気筒の x の位置)” → “図 E.2 建屋周辺の気流計算結果例 (→は排気筒の x の位置)” に変更する。
- ・ 新規(P.40)：気流設定条件の内，水平方向の広がりパラメータ σ_y を規定することは，まだまだ検討事例が少ないことから時期尚早である。今後更なる検討を進め，知見を蓄積させていく。

(5) 専門部会・標準委員会におけるコメント対応について

込山委員より A1SC8-2 に基づき，基盤・応用技術専門部会（平成 22 年 3 月 4 日開催）及び標準委員会（平成 22 年 3 月 12 日開催）にて出されたコメント内容に説明があった。コメント内容の検討は次回実施することとなった。

(6) 今後の予定

- ・ 次回第 9 回分科会を 5 月 11 日(火)15 時～開催することとした。

以上